

ポスターを使って話してみよう!

すべての子どもに、 を。

あなたは、どんなスポーツや遊びが好きですか?
それをしているときはどんな気持ちですか?

世界の子どもたちも、みんなと同じようにスポーツや遊びを楽しんでいます。しかし、生きる環境や背景はさまざまです。

世界の子どもたちは、どんな暮らしをしていて、
どんなことを思っているのかな?
そして、世界の子どもたちに必要なことは何だろう?
ユニセフと一緒に考えよう!



アフリカの国 コンゴ



© UNICEF/UN0281606/Dejongh

サッカーは人気があるよ!
サッカーボールはないけれど、
手作りのボールがあるよ。
いつも学校の帰りに友だちと
サッカーをするのが楽しみな
んだ。

「コンゴ」が名前に含まれる国はアフリカに2つ、隣り合って存在しています。「コンゴ」と「コンゴ民主共和国」という国です。写真は「コンゴ」の南部にあるブエンザ地方の子どもたち。コンゴは、治安や各種感染症の発生・流行の懸念があり、子どもたちが暮らすには厳しい環境です。世界中どこに生まれても、子どもたちの命と健やかな成長を守るために、ユニセフは栄養、保健、水と衛生など、さまざまな支援活動を行っています。手作りのサッカーボールを笑顔で追いかける子どもたち、その笑顔を守っていくために、どんなことが必要かな?

カリブ海の国 バハマ



© UNICEF/UNI205398/Noorani

大きなハリケーンがきて、家が
とばされて、本当にこわかった。

ここは避難所。たくさん的人が
一緒に暮らしているよ。ユニセフ
の人とみんなで輪になって
遊んだの。大声で笑って、遊ぶ
のは久しぶり!

2019年9月、ハリケーン「ドリアン」が上陸し、甚大な被害をうけたバハマ。避難所で暮らす子どもたちを集めて、スポーツをしたり、絵を描いたりする心理ケアが行われました。緊急事態がおきたとき、ユニセフは「子どもにやさしい空間」や「学習センター」などを設置し、子どもたちが日常を取りもどし、安心して過ごせるように支援を行っています。気候変動の影響、人口の増加などさまざまな要因が重なって、自然災害の被害にあう人はこれからも増えていくと予想されています。緊急事態に直面した子どもたちを守り、復興していく中で、どんなことが必要かな?

ヨーロッパの国 オーストリア

家族でイラクの紛争から逃げて、ここまでできました。小さな頃から足が不自由で、車いすを使っています。いろいろな国から逃げてきた人たちが、古い病院だったところで一緒に暮らしています。ぼくらはみんな、ここで難民として認められるのを待っています。友だちや弟とバスケットボールをするのが好きです。ぼくの一番の親友は、アフリカのソマリアから逃げてきました。(サジャド、15歳)



© UNICEF/UN021754/Gilbertson VII Photo

2019年1月~9月上旬の間に5万7,000人の移民・難民がヨーロッパに到着しました。その4人に1人が子どもでした。紛争や貧困から命からがら逃げてきた子どもたち。すべての子どもが、どこに生まれても、どこに住んでも、その権利が守られ、生まれもった能力を最大限発揮できるように、ユニセフは支援を行っています。自分がもし、故郷を離れないといけなくなり、言葉も通じない国に住むとしたら、そこがどんな環境であってほしいとあなたは願いますか。

南アジアの国 バングラデシュ

わたしの小学校には、女の子たちのサッカー・クラブがあるの。男の子と同じようにスポーツができるのは、すごくうれしい。(モニ、8年生)



© UNICEF/UNI211976/Haque

バングラデシュでは、女の子が屋外でスポーツをする機会はほとんどありませんでした。特に農村部では、「女の子は家にいて、家事をするべき」という昔からの考えが強く残っていて、女の子がスポーツをすることに反対する人がたくさんいました。しかし、ユニセフの支援プログラムを通して、スポーツで結果を残す女の子の姿が、地域の人たちの意識を変え始めました。ユニセフは、基本的な人権を守る活動の一つとして、ジェンダーの平等を推進しています。だれもが自分の好きなスポーツを楽しめる世界を創っていくためには、何が必要かな?

あなたは、 にどんな言葉を入れますか?

その言葉を考えた理由を、お友だちと話し合って、みんなの思いをユニセフに届けてください。

みんなで届けよう、世界の子どもに希望のバス!